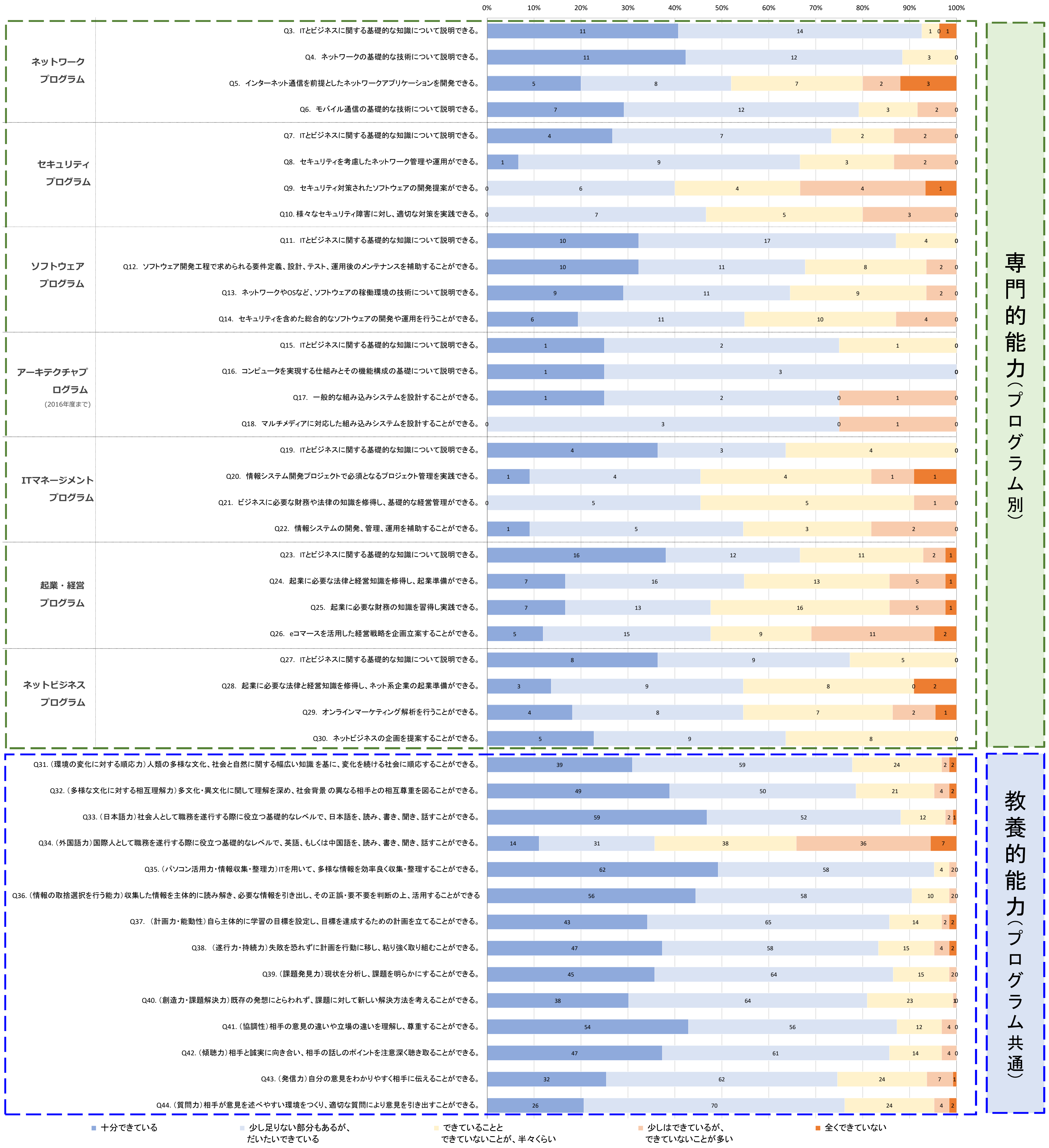
学修成果の検証結果

サイバー大学(以下、本学)では、卒業から1年未満の方を対象に「卒業生ディプロマ・ポリシー達成度アンケート」を毎年1回、実施しています。
以下は、平成26(2014)年度から平成29(2017)年度の卒業生による回答を集計した結果です。本学がディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に定義した「専門的能力」と「教養的能力」の達成度を測るために、「1. 十分できている」、「2. 少し足りない部分もあるが、だいたいできている」、「3. できていることとできていないことが、半々くらい」、「4. 少しはできているが、できていないことが多い」、「5. 全くできていない」までの5段階で評価しています。この結果に基づき、本学の教育課程を通じて、「IT知識」、「ビジネス応用力」、「コミュニケーション力」という三つの力をバランス良く身に付けた「高度IT人材」を育成できているかどうか、学修成果の検証を行っています。

ディプロマ・ポリシー達成度アンケート_2014～2017年度卒業生_集計結果



検証結果に対する総評と今後の改善施策

本学では、学修成果の検証において達成すべき水準として、「十分できている」および「少し足りない部分もあるが、だいたいできている」という肯定的な回答が全ての項目で50%以上になることを目指しており、これをアセスメント・ポリシーとしています。
専門的能力に関しては、5段階評価のうち「十分できている」および「少し足りない部分もあるが、だいたいできている」と肯定的な回答をした割合が、概ねすべての項目で50%以上という結果でした。「セキュリティ対策されたソフトウェアの開発提案」や「eコマースを活用した経営戦略の企画立案」という項目に関しては、「少しはできているが、できていないことが多い」および「全くできていない」と否定的な回答をした割合が30%を超えていますが、平成29(2017)～平成31(2019)年度にかけて「暗号技術と情報セキュリティ」、「情報セキュリティマネジメント」、「情報セキュリティ応用」、「eコマース入門 ～ネットショップ経営～」などの専門科目を新規開講し、教育課程の充実に努めています。なお、すべてのプログラムに共通する専門的能力として、「ITとビジネスに関する基礎的な知識について説明できる。」という項目に関しては、全体で77.6%の卒業生が肯定的な回答をしています。
同じく、教養的能力に関しては、肯定的な回答をした割合が、一項目を除いて、すべて70%以上という結果でした。本学の特色である「ITを用いて、多様な情報を効率良く収集・整理することができる。」という項目では、95.2%の卒業生が肯定的な回答をしています。
教養的能力のうち「外国語力」の達成度では、肯定的な回答が唯一40%を割ってしまっており、卒業生に自信を抱かせることができていない点が課題と認識しています。本課題の対策として、平成31(2019)年4月より、英語科目に新しいオンライン教材を導入しました。この新教材には、個々の学生の習熟度に応じて学習内容が最適化されるアダプティブ・ラーニングの技術が採用されています。豊富な練習問題を通じて、ビジネス現場や日常生活での実践的な英語スキルを修得させるとともに、ネイティブ講師との英会話レッスンに取り組ませることで、これまで以上の教育効果向上に努めていきます。